

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】令和 3 年 2 月 25 日 (2021.2.25)

【公開番号】特開 2016-214258 (P2016-214258A)

【公開日】平成 28 年 12 月 22 日 (2016.12.22)

【年通号数】公開・登録公報 2016-069

【出願番号】特願 2016-154099 (P2016-154099)

【国際特許分類】

A 2 4 F 47/00 (2020.01)

【FI】

A 2 4 F 47/00

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 3 年 1 月 7 日 (2021.1.7)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0046

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0046】

図 20 は、本開示の原理に従って単純化された用量および / または加熱器制御の工程 2000 のフローチャートを示している。前記工程 2000 の開始にあたって、前記コントローラ 170 は (2020 で) 前記センサー 132 を読み取ってもよい。前記センサー 132 がオンでない (2030 で「いいえ」である) 場合、前記コントローラ 170 は (2020 で) 前記センサー 132 を読み取り続けてもよい。前記センサー 132 がオン (2030 で「はい」) の場合、前記コントローラ 170 は「加熱器作動時間」と「最近の時間」を比較してもよい。前記「加熱器作動時間」は、前記加熱器 146 を最後に停止して以降、前記加熱器 146 が継続作動している時間を表示してもよい。前記「最近の時間」は、前記加熱器 146 が任意の一定期間中に作動していてもよい時間の限度を設定する定数であってもよく、この定数によって単位時間あたりに供給してもよい用量の限度が設定される。前記「加熱器作動時間」が前記「最近の時間」よりも大きい (2040 で「はい」である) 場合、前記工程 2000 は (2020 の) 前記センサー 132 の読み取りに進んでもよい。前記「加熱器作動時間」が前記「最近の時間」よりも小さい (2040 で「いいえ」である) 場合、(2050 で) 「累積作動時間」を「合計時間」と比較してもよい。前記「累積作動時間」は、前記 ESD 100' の製品寿命期間中に前記加熱器を作動せた合計時間を表示するカウント値であってもよい。前記「合計時間」は、前記加熱器 146 が前記 ESD 100' の製品寿命期間中に作動していてもよい時間の合計を設定する定数であってもよい。前記「累積作動時間」が前記「合計時間」に達していない (2050 で「いいえ」である) 場合、(2055 で) 前記加熱器 146 を作動させてもよく、前記工程 2000 はステップ 2020 に戻ってもよい。前記「累積作動時間」が前記「合計時間」に達した (2050 で「はい」である) 場合、前記 ESD 100' を恒久的に使用不能としてもよく、前記工程 2000 は (2070 で) 終了してもよい。